

毎日、短時間であるが本を読んでいる。今は、



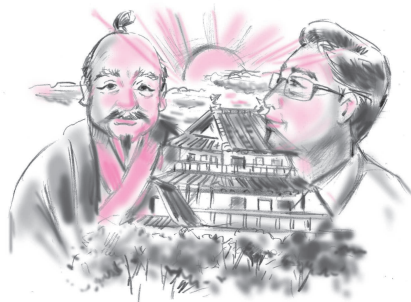
37 野原 敏裕 長官監督標準労働北屋古名

村上春樹と恩田陸を読んでいる。村上春樹は、『ノルウェイの森』以降、新作が出る都度読んでいます。恩田陸は、10年以上前に『6番目の小夜子』

から始まって数冊読んだが、先般、直木賞を受賞したというので、久しぶりに新作を読み始めた。特にジャンルにこだわりはなく、適当に気に入った本を読んでいるが、数年前までは、歴史小説を好んで読んでいた。吉川英治や司馬遼太郎等有名どころはかなり読んだと思っっている。歴史小説は、史実に基づく物語であるが、歴史上の人物が生きて描かれ、ストーリーに読めるし、知識にもなる。署長職をしていると管内の歴史にも触れることがあるが、こうした時にも役に立つ。

歴史小説の中でも、特に戦国時代のもは、この地域で活躍した織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三英傑が登場するし、地名なども身近に感じられ、大変面白い。3名と

もそれぞれを主人公とする歴史小説があるが、その中でも山岡荘八の『徳川家康』は全26巻と長編である。あまりに長く、読んだあとから忘れてしまう。また、20巻以降は、難解となり読み切るのは大変であるが、徳川家康が魅力的に描かれており、



これまで数年おきに読んでいる。さて、今年4月に、この山岡荘八の『徳川家康』にも出てくる小牧山城が「続日本100名城」に選ばれた。小牧山城は、信長が築城し、後に秀吉と家康が戦った小牧・長久手の戦いにおいて、家康が陣を張った城である。この戦いは、小牧山付近で秀吉軍と家康軍が対峙(たいじ)し、最終的には両者は和睦したものの、合戦場となった長久手では、家康が大勝利を収め、後の歴史にも影響を及ぼした戦いである。

この小牧山は、当署管内にあるが、これまで登ったことはなかった。先般、早起きして行ってきた。標高は85・9mで、アピタの向いから登るに、ゆるやかな1キロ程度の山道となっていた。途中、信長が作ったと言われる石垣等を見ながら頂上に着くと城の形をした4階建ての小牧市歴史館があり、そこでは、小牧山の歴史を見ることができた。また、展望台からは、周囲の山々を見ることができ、遠くは御岳や乗鞍までわずかであるが望むことができた。

全行程2時間程度であったが、歴史を感じながら楽しく過ごすことができた。小牧山城は、いわゆる城郭というような建物ではないが、著名な歴史の舞台として「続日本100名城」に選定されたものと思われた。

なお、「日本100名城」には、県内では犬山城、名古屋城、岡崎城、長篠城が選ばれている。また、「続100名城」には、小牧山城のほか古宮城、吉田城が選ばれている。ちなみに、「日本100名城」に岐阜では岐阜城が選ばれている。岐阜城は、斎藤道三や織田信長が居城とした金華山の上に建つ山城である。「千仞の嶽 金華山 百里の水 長良川」、これは我が母校の校歌の始めの一節であるが、長良川越しに見る金華山、そして、その上に立つ岐阜城の眺めは大変素晴らしい。

イラスト・森沢康代